

科目名	セキュリティプログラミング						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	Pythonの基礎的な文法を学び、ソースコードをもとにシステムの脆弱性について実例を確認しながら理解する						
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				セキュリティ演習に利用されるPython言語の基本文法を使用できる	
		○				インターネットの主要な攻撃手法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	・ マイナビ出版 つくりながら学ぶ！ Pythonセキュリティプログラミング						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～3	Pythonチュートリアル			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	4～6	Pythonチュートリアル			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	7～9	ネットワークセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	10～12	ネットワークセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	13～15	Webセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	16～18	Webセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	19～21	Webセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	22～24	暗号			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	25～27	暗号			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	28～30	ファジング			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	31～33	ファジング			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	34～36	無線技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	37～39	無線技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
40～42	仮想化技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。			
43～45	仮想化技術とセキュリティ			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。授業態度は意欲として出席状況も鑑みる。						

科目名	プログラミング演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	機械学習に利用される基本技術を学び、入門用の実践環境の利用方法を学ぶ。 機械学習の代表的なアルゴリズムの基本を実践する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				機械学習に利用される数学の初歩知識が説明できる	
		○				機械学習に利用されるPython言語の基本文法を使用できる	
		○				機械学習の主要なアルゴリズムを説明できる	
テキスト・教材 参考図書	・ソーテック社 いちばんやさしい ディープラーニング 入門教室						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	2	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	3	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	4	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	5	■Chapter3 ディープラーニングの体験			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	6	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習(機械学習の歴史)			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	7	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習(基本数学)			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	8	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	9	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	10	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	11	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	12	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	13	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク			事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
	14	まとめ			これまで学んだことを整理しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	モバイルアプリケーション開発演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	システム開発に関わるツール、新技術に触れ、より高度なシステム開発ができることを目指す。 また、効率的に開発が行える技術の習得も行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					システム開発に用いる応用的な技術を習得し、システム開発に導入することができる	
	○					サンプルソース等を参照しながら、応用的に開発ができる	
	○					これまでに学んできた開発技術と融合させることができる	
テキスト・教材 参考図書	Vue.js & Nuxt.js超入門 秀和システム いちばんやさしい Git 入門教室 ソーテック社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~3	環境構築			環境構築が時間内に完了できなかった場合、 自宅等で完了させてくること		
	4~6	React			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7~9	Vue.js入門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10~12	Vue.js基本をマスター①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13~15	Vue.js基本をマスター②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	16~18	コンポーネントを使う			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19~21	コンポーネントを掘り下げる			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22~24	Nuxt.js入門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25~27	Nuxt.jsによる状態管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28~30	メモアプリを作る			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	31~33	外部サービスを利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	34~36	総合演習①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	37~39	総合演習②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
40~42	総合演習③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	まとめ						
評価方法	(1)作品提出期限・過程を評価する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出状況		◎				40%
	課題・レポート		○		◎		40%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	サーバ構築演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	齋藤元		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	アプリケーション作成のためのクラウド環境の構築を実際にAmazon Web Servicesを使い作りながら学ぶ						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				クラウドの仕組みを説明できる	
		○				アプリケーション作成のためのクラウド環境の構築ができる	
テキスト・教材 参考図書	ゼロからわかる Amazon Web Services超入門 はじめてのクラウド 技術評論社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	CHAPTER1 Amazon Web Servicesとは何か			AWS educate1に登録、AWSアカウント作成		
	2	CHAPTER2 AWSをはじめよう AWSアカウント作成					
	3	CHAPTER3 Webサイトを公開しよう					
	4	CHAPTER3 Webサイトを公開しよう					
	5	CHAPTER4 LAMPサーバーでWordPressを動かそう					
	6	CHAPTER4 LAMPサーバーでWordPressを動かそう					
	7	課題作成その1					
	8	CHAPTER5 データベースを活用しよう					
	9	CHAPTER5 データベースを活用しよう					
	10	CHAPTER6 固定IPアドレスとドメイン名を使おう					
	11	CHAPTER6 固定IPアドレスとドメイン名を使おう					
	12	CHAPTER7 安全な通信を使おう					
	13	CHAPTER7 安全な通信を使おう					
	14	課題作成その2					
15	課題作成その2						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				
	課題・レポート	○	○		◎		
	授業態度				◎		
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。授業態度には出席状況も学習意欲として鑑みる。						

科目名	プロジェクト開発演習A						
科目名(英)							
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・チームによるアプリケーション開発作業を行い、問題点を適切に対処した「プロジェクト管理」を経験する。 ・ロリポップレンタルサーバーを用いて実際にサービスを公開する ・詳細設計書に基づく開発を経験したのち、設計からの開発を実践する。 ・開発作業の成果物について「ドキュメント・ソース管理」を行う。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
	○					開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・日経BP社 プロジェクト実行ガイド大全 ・シーアンドアール研究所 わかばちゃんと学ぶ Git使い方入門 ・日本実業出版社 「プロジェクトマネジメント」実践講座 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~5	開発環境構築、PHPの基礎、チーム分け			ロリポップアカウントを作成しておくこと		
	6~10	ドキュメントから開発をおこなう			チームで企画を検討しておくこと		
	11~15	ドキュメントから試験をおこなう			チームで企画を検討しておくこと		
	16~20	企画選定					
	21~25	設計・第一回レビュー					
	26~30	テスト設計・最終レビュー					
	31~35	開発			以降、次回レビューまでに進捗レビュー準備をしておくこと		
	36~40	開発					
	41~45	開発					
	46~50	開発					
	51~55	テスト					
	56~60	テスト					
	61~65	発表資料作成					
66~70	振り返り・改良・コンテスト準備						
評価方法	(1)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(2)制作過程の進捗状況を評価する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				40%
	成果物提出状況		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	畠添正和		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:前期は、計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。⇒求めた答えと一致する「選択枝」を選択する。SPIテキスト(非言語分野)の未消化分は、後期に継続して行う。 (2)言語分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				非言語分野の計算が基本通りに答えを求めることができる。	
		○				言語分野の練習問題をとくことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・最新最強のSPIクリア問題集(5月末に最新版を購入・配布)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職筆記試験について数学分野(1回目)仕事算					
	2	数学分野(2回目)水槽算					
	3	SPIテキストの構成・内容の確認、国語1(二語の関係①) テキストの数学1の内容確認・練習問題					
	4	国語2(二語の関係②)数学分野(3回目)鶴亀算					
	5	国語3(文法)数学分野(4回目)連立方程式の練習問題					
	6	国語4(語句の意味)数学分野(5回目)濃度算			小テスト範囲の復習をしておくこと		
	7	小テスト(数学1. ~ 数学4-2)					
	8	小テスト 返却&解説 国語5(短文の穴埋め)、数学分野(6回目)損益算			小テストで間違えた問題の復習をしておくこと		
	9	国語6(文章整序)数学分野(7回目)流水算					
	10	国語7(空欄補充)数学分野(8回目)参考問題					
	11	国語8(長文読解)、国語9(参考問題)数学分野(9回目)年齢算					
	12	数学分野(10回目)場合の数					
	13	数学分野(11回目)確率			これまで学んだ範囲を復習しておくこと		
14	数学分野(12回目) 定期試験対策			定期試験対策で整理した内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テスト(小テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	○	◎				40%
	授業態度など				◎		20%
履修上の注意							

科目名	就職実務 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	次年度就職に向けて、スムーズな就職活動ができるように前期の準備を行う。 業界研究や職種研究を通じて、将来の働くイメージを具体的に描いていく。 企業研究の方法を知り、受験したい企業を選択する。 履歴書(業界・職種志望理由、自己PR他)を作成する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					IT業界の特徴を説明できる	
	○	○				業界と職種の志望理由を述べることができる	
		○				就職採用試験に提出する履歴書が準備できる	
テキスト・教材 参考図書	・麻生塾オリジナル 就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職の目的 / 働くこと、社会人基礎力の理解					
	2	業界研究1					
	3	業界研究2					
	4	業界研究3					
	5	業界研究4					
	6	職種研究					
	7	職種研究					
	8	職種研究					
	9	業界・職種志望動機まとめ1					
	10	業界・職種志望動機まとめ2					
	11	企業研究1					
	12	企業研究2					
	13	履歴書作成1					
	14	履歴書作成2					
評価方法	(1)適宜レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート課題	◎	○				50%
	出席状況・授業態度				◎		50%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ						
科目名(英)	Business Communication II						
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年						
授業概要	ディベートの基礎知識を習得し、実習を行うことで論理的な討論技法を段階的に身につける。 ①客観的、批判的、多角的な視点が身につく。 ②論理的な思考表現が出来るようになる。 ③自分の考えを筋道を立て、人前で堂々と主張できるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ディベートの手法を理解できる。	
		○				きちんと理由、筋道をつけて自分たちの主張を相手に伝え、納得してもらうことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・ネコと学ぶディベートの本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 ディベートとは 第2章 ディベートのルール					
	2	第3章 ディベートの基礎					
	3	第4章 立論の作り方					
	4	第5章 反駁の考え方				授業内容に係るレポート作成および提出	
	5	第7章 ディベートを行う準備 第9章 ジャッジ					
	6	①テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	7	①ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	8	②テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	9	②ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	10	③テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	11	③ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	12	④テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	13	④ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	14	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	古賀正恭		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						